

● がんに対する取り組みとがん検診の受診率を上げるための対策について

その他の質問

- ・部活遠征の安全について
- ・子どものスポーツについて



市政会 丸山忠男 議員



議 がんが原因で多くの人が亡くなっている現状について、NHKのドキュメンタリー番組クローズアップ現代で「がん患者になった医師の告白」と題して、がん検診の重要性を放映していた。

国は将来的には本人の同意を得ながらデジタル基盤を活用して組織型検診の仕組みを検討していくとしている。

勝山市は今後、がんに対してどのような体制で取り組み、がん検診の受診率を上げるためにはどうしたら良いのか、市長の見解を伺う。

理 現在、国の指針に基づき、肺がん、大腸がん、胃がん、子宮頸がん、乳がんの5つのがん検診を実施しており、受診率は約20～25%未満となっている。集団検診と個別検診があり、受診しやすい環境づくりのため日曜検診も行っている。

受診率向上に向け、国民健康保険加入者の未受診への再勧奨通知やLINEによる集団検診予約を導入し、いつでも予約できる体制や受診時の待ち時間短縮等を図っている。

今年度からは、周知ポスターやチラシにQRコードを掲載し、スマートフォンでがん検診受診券の発行申請ができるようにした。また、職場等で受診機会がない方に向けて、市内企業や商工会議所等を通じて受診勧奨を実施する予定である。

なお、国では自治体の検診だけでなく職場や人間ドックの受診情報を一元的管理するシステムの構築を進めており、がん検診受診状況を正確に把握した受診勧奨や、予約・結果管理等のオンライン化による利便性向上が期待される。



勝山市がん検診案内



がん検診受診券交付

● 中高連携と総合的な学習の時間（探究学習）について
● 見守りGPS(位置情報タグ)の早期導入について

その他の質問

勝山市のイベントについて



森かよ子 議員



議 令和7年9月26日に勝山市教育委員会から県に「勝山高校の学科統合について（お願い）」が提出され「令和10年度から普通科と探究特進科を統合して1学科としていただきたい」とある。提出した意図とメリット、デメリットは何か。また連携生徒は何名で、その生徒は全て「簡便な入試」になるのか伺う。

理 勝山高校の近年の入学者は100人前後という状況にある。今後の少子化を踏まえ、探究に関する学科1学科に統合することで、学校規模の観点や中学校、高校ともに指導が効果的・効率的に行えること、3年間の取組による探究的な学びのカリキュラムの充実、普通科への波及による大学進学実績向上など、勝山高校のさらなる魅力化や中高双方の探究学習の充実につながると考えた。なお、想定されるデメリットはない。

連携生徒の人数枠については、県教育委員会が決定するため、現時点では未定。簡便な入試は連携生徒を対象とする。

議 子どもの安全を確保し、保護者や学校、地域が安心して子どもを見守るため、見守りGPS（位置情報タグ）は有効な



ツールの1つであると考え。見守りGPSを導入することで、子どもの現在地を把握し、登下校や放課後の移動が確認できるため、大きな役割を果たすと考え。導入できないか伺う。

理 本市の現状では、児童センター等を利用する児童は保護者等の迎えがあり、それ以外の児童は学年ごとにまとまって下校することで、一人きりの状況が少なくなるように努めている。見守りGPSの必要性は、他自治体の動向や多様な民間サービスの普及状況などを注視し、研究していく。